

Title	ごあいさつ
Author(s)	千代, 賢治
Citation	癌と人. 20 P.1-P.1
Issue Date	1993-03-31
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/24007
DOI	
rights	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

ご あ い さ つ

理事長 千 代 賢 治

皆様には益々ご清祥のこととおよろこび申し上げます。

平素は、財団法人「大阪癌研究会」に対し、格別のご支援、ご協力を賜り洵に有難うございます。心よりお礼を申し上げます。

さて、平成3年のわが国の平均寿命は男性が76才、女性が82才となり依然としてわが国は世界一の長寿国であります。またわが国の全人口に占める65才以上の老人の割合は、現在12%ですが、今後30年のうちに、その割合は25%を越え、日本の国民の4人に1人は65才以上の老人ということになるであろうと予測されています。このように急速に社会の高令化が進むわが国ですが、この中で成人病、特にがんの急増が大きな社会問題になっています。

がんは昭和56年以来、死亡順位の第一位を占め続け、平成3年一年間にがんで亡くなられた方は約22万人に達しております。そしてその数はさらに増加する傾向にあります。このように現在、がんは国民にとって最も恐るべき疾病の一つであり、その制圧はわが国の緊急を要する国家的課題であると言っても過言ではありません。このため昭和58年、政府は「対がん10ヶ年総合戦略」を策定し、10年を目途にがんの本体解明を図ることを目標とし、発がん遺伝子などの最先端のがん研究を内外の英知を結集して推進し、その成果を予防・診断・治療に反映させ、がんで苦しむ人々のために役立てようとしています。しかし、未だその根本的治療薬・治療方法は確立されていないのが実情です。

このような中で現在、私どもにできることは次の3点であろうと思います。まず第一は、がんにかからないようにすること。がんの予防であります。第二は、がんにかかったならば、これをいかに早く発見し、早く治療を行なうか。すなわち早期発見、早期治療です。第三は、がんが進行してしまってから発見され、がんを切除した後、いかにがんの再発・転移を予防し治療するかです。

わが財団は、多年に亘りがんの予防のための知識の普及、早期発見・早期治療のための検診の拡大、そして学術研究の奨励助成に努めて参りました。今後とも各自自治体、対がん協会、大阪商工会議所そして各事業体のご理解とご支援を得てがん対策事業の一翼を担いがん制圧のための活動を広げていきたいと念願しております。がんを制圧し万人の健やかな健康を実現するために、今後とも皆様の力強いご支援とご協力を切にお願い申し上げます。